
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

センターだより 第148号 (通巻第215号)

2016年12月19日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

■第2回教育相談室連絡協議会が開催されました

10月11日に本年度第2回教育相談室連絡協議会が行われ、大学教員、大学教育相談室非常勤相談員、附属学校の教育相談担当教員、附属中学校カウンセラーが一堂に介し、教育相談業務に関する情報共有や今後の課題等について協議しました。特に、今年度附属小中の双方にスクールカウンセラーが配置されたことの意義は大きく、来年度の教育相談体制の維持、充実のために、非常勤スクールカウンセラーの継続的雇用等を関係部署に積極的に働きかけていくことを共有しました。

■平成28年度第3回連携・教育研究会のご報告

第3回連携・教育研究会が11月28日(月)に、山梨県総合教育センターにおいて開催されました。全体会では本学附属教育実践総合センター長である松森靖夫教授による講演会、そして、分科会では山梨県総合教育センターの主事研究に関わる協議が各グループごとに行われました。

当日は、大学教員と山梨県総合教育センターの主事の先生方、合わせて40名ほどが集まり、有意義な時間を過ごすことができました。

松森靖夫センター長による講演会は、「子どもの「なぜ」から始める理科授業づくり～理科好きな子どもをはぐくむために～」をテーマに、中1ギャップと理科嫌いの現状分析、子どもの「なぜ」について、「なぜ」を起点とした授業づくりの3つの視点から興味深いお話を拝聴することができました。

まずはじめに、理科嫌いが起こる原因について、学(校)歴社会、学校理科、家庭教育・社会教育の現状から具体的なお話がありました。偏差値科目や暗記科目、受験科目としての理科になってしまったこと、また学ぶ必然性がなくなってしまったこと、理科テストの結果に一喜一憂する現代の親たち、塾通いに時間が費やされてしまい自然と触れ合う時間の減少などを挙げられていました。

このような現状下、教師にできる支援として具体的な示唆をいただくことができました。まずは、子どもたちが何でも言える学級風土、何ら咎められない自由と安全の風土の醸成を必要であることを挙げられました。また、一つのことを何日もかけてじっくり考えさせることを通してひらめき思考や創造的思考を育成すること、理科の学びに対して自己効力感を育成するためにはまずは褒めて育てること、授業づくりの工夫としてブラックボックスやオープンエンド的な問題場面を設定することなど、具体的な事例をもとにした分かりやすいお話に講演時間があっという間に過ぎてしまいました。授業づくりを考える上での基本となる考え方を改めて考え直す有意義な時間になりました。

教師であれば誰もが求める「よい授業」とはどのような授業かを理科の視点からご講演いただき、今後の授業構成を考える上での具体的な取り組みについて、多くの示唆を得ることができました。



■「地域連携子どもと親と教師のための教育相談事業 第2回連絡協議会」が開催されました

12月6日（火）に、標記協議会が県庁防災新館にて開催され、教育相談活動等に関して、県教育委員会、県PTA協議会事務局、県教育総合センター、県警察本部、県スクールカウンセラーほか関係諸機関と情報交換を行いました。また、教育実践総合センター教育臨床部門担当教員が講師となり、「対応困難な当事者にどうかかわるか」というテーマで研修会を実施しました。

■教育相談室に関するお知らせ

「教育相談室（L-428）」及び相談室の備品をどうぞご利用ください。

「教育相談室」のご利用に際しましては、事前に附属教育実践総合センター事務室（J号館4F）にて空き状況を確認の上、ご予約ください。火曜日は附属教育実践総合センターが優先的に使用させていただきます。鍵はJ号館1階支援課にあります。利用された場合には、相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲームなど備品も貸し出しております。借りる際には必ず使用ノートにご記入をお願いします。

これまでのセンターだよりの一部は、 <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。